

1 単元名

若台トラベルエージェンシー～すてきなツアーお勧めします～(Hi, friends! 2 Lesson5)

2 単元の目標

- 自分の思いがはっきり伝わるように言葉やジェスチャーを使い、相手の理解を確かめるとともに、反応を示しながら話したり聞いたりする。 (コミュニケーションへの積極的な態度)
- 自分のお勧めする国の特色を表す表現や、その特色について尋ねたり表したりする表現に慣れ親しむ。 (外国語への慣れ親しみ)
- 世界には様々な食、観光場所、生活の文化などがあることを知り、日本との違いに気付く。
【国際理解・異文化理解の視点】(言語や文化に関する気付き)

3 単元について

(1) 単元観

本学級の児童は、4月から「アルファベットクイズをつくろう」「友達の誕生日を調べよう」「できることを紹介しよう」「道案内をしよう」という4つの単元を学習してきた。また、他国の言語や文化に興味をもち、様々な表現に慣れ親しみ、色々なゲームを通して、友達とコミュニケーションを図る楽しさを体験してきた。

児童は、社会科の単元「日本と関係の深い国々」で、自分が行きたいと思う国の文化・習慣の違いについて新聞にまとめる活動を体験している。本単元ではこの学習を生かして、世界の様々な国名、国旗などについて知り、世界遺産をはじめとする世界各地の有名な建物や観光場所、特色ある食べ物などについてグループごとに調べ、その内容を「お勧めツアー」として英語で紹介し合う活動を行う。使用表現は、In 国名～, Do you like/know～?, you can eat/see～, can you～, What's this?, What do you think about～?, which do you like?, I want to go to/eat/see～などを設定している。

この活動を通して、世界には日本と違った様々な文化があることを再認識することはもちろん、国の特色について紹介する英語表現に慣れ親しみ、話し手が聞き手の反応を引き出したり、聞き手側からも知りたい情報について質問したり、自分の考えを述べたりして、互いの理解を確かめ合いながら進んで英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育てていきたい。

(2) 児童の実態

(省略)

(3) 指導観

児童の実態から、英会話をすることに對して不安をもっていることが分かった。そのためには、英単語や英語表現に慣れ親しむ必要がある。そこで、児童が楽しく英単語や表現に慣れ親しめるようなゲームやチャンツを設定したり、デジタル教材の活用を図ったりして、英単語や表現に十分慣れ親しませたい。

また、話すことに對しての抵抗感を少しでも減らすために「覚えなければならない」という觀念を捨て、英語は日本語と同じでコミュニケーションの手段であり、たとえ上手に話せなくても相手に通じればよいということや、ジェスチャーの重要性を理解させ、間違ってもいいから英語を使おうとする姿勢を褒めていきたい。

聞くことに對しても、「分からない場合は何度も聞き返していい、ゆっくり言ってもらってもいい」ことを徹底し、聞くことに對する不安感を減らしていきたい。

さらに、児童が進んでコミュニケーションを図れるように、ペアワークやグループ活動を積極的に取り入れて友達關係が豊かになるように配慮する。共に活動し、共に新しい発見をし、共に互いの良さを知り、喜び合うことで、伝え合うことの楽しさや互いに高め合える仲間のすばらしさを実感させたい。

4 研究主題との関連

研究主題

千葉市教育研究会 国際理解教育・外国語活動部会 研究主題
心の国際化から、共に生きる社会へ ～国際性豊かな児童生徒の育成を目指して～

現代の国際社会は、社会や経済のグローバル化が急速に発展し、異なる文化の共存や持続可能な発展に向けた国際協力が求められている。また、人材育成面での国際競争も加速している。

このような国際化が急激に進む社会の中で、多種多様な考えをもった人々との相互理解を図るための外国語を通じたコミュニケーション能力が重要視されるようになってきている。特に「自分たちとは異なった考え・文化を尊重する」「個をしっかりとちつつも、多様な人々と良好な關係を構築する」といった共生への姿勢や態度を身に付けていくためには、小学校段階では外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めることはもちろん、何よりも積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する必要がある。

外国語を使ってコミュニケーションを図る外国語活動では、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手が伝えようとしていることを理解したりすることが母国語ほど簡単にできない。だからこそ、互いに意思疎通できたときの達成感や一体感は大きくなると考えられる。この感動を味わった子供たちは、言葉で通じ合うことは心が通じ合うことと同じであることに気付き、「積極的に外国語でコミュニケーションを図ろう」という態度を身に付けていくと考えられる。

そこで本単元の授業を通して「外国語を使って進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」を目指して以下の視点を設定し検証することとした。

- (1) 児童が意欲的に活動することができる題材の設定
- (2) 表現に慣れ親しむためのグループ活動の設定
- (3) コミュニケーションの良さを振り返ることができる評価カードの活用

(1) 児童が意欲的に活動することができる題材の設定

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するためには、子供たちの興味・関心をひく題材を設定し、「伝えたい」「聞きたい」と思うような活動を設定することが必要である。子供たちの実態から海外旅行や海外の文化に興味をもっていることが分かった。そこで本単元では、Hi, friends!2 の Lesson5「友達を旅行に誘おう」をアレンジし、単に児童が互いにおすすめの国について英語で紹介するという活動から、児童が旅行会社を設立するという場面を設定し、児童一人一人が自分の紹介したい国の食べ物や世界遺産などをアピールできるようなツアーを組み立て、英語で紹介するという活動を取り入れることとした。この活動をするためには、自分のお勧めする国に関してどういう国なのかを深く知っておく必要がある。そこで、社会科の単元「世界とつながりの深い国々」において「日本との結びつき」、「文化や習慣の違い」、「特徴」について調べ学習を行うこととした。調べ学習を進めていく内に、その国の文化の良さに気付いたり、愛着をもったりすることができると考えられる。この社会科の学習を生かせば、「自分のお勧めする国について友達に紹介したい」という思いをより強くもつことができ、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができると考えた。

(2) 表現に慣れ親しむためのグループ活動の設定

外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを味わえば、子供たちは積極的にコミュニケーションを図ろうとすると考えられる。そのためには、子供たちが不安を感じることなく外国語を使って対話できるようにしなければならない。アンケートから読み取れる子供たちの実態において「英語表現は覚えなくては会話が成り立たない」という困り感や、会話に対する緊張感が感じられた。子供たちにとって英語表現を使って会話をすることは心理的なハードルが高いことが伺える。そこで、本単元で扱う英語表現に楽しく慣れ親しませるためにゲームを取り入れたグループ活動を設定したい。ゲームを取り入れたグループ活動のよさは、子供たち同士で楽しみながら協力できることにある。また、グループの中では、「なんと言っているかわからない」という子供がいても、気軽に友達に聞くことができたり、分かる子供が助けたりと、互いに支え合って学び合うことができると考えられる。そのためには、ゲームの内容が子供たちにとって面白いものであり、協力できるものでなければならない。そこで、以下の2つのゲームを設定したい。

①メモリーゲーム

グループ内で協力して、音声や表現に慣れ親しませるために、担任が言った単語の順番にカードを並べるメモリーゲームを取り入れる。担任が単語を言うスピードを速くしたり、単語数を増やしたりすることで、一人で覚えるのが難しくても、グループで行うことで友達同士で助け合いながら聞き取ることができると考えた。

②世界一周すごろくゲーム

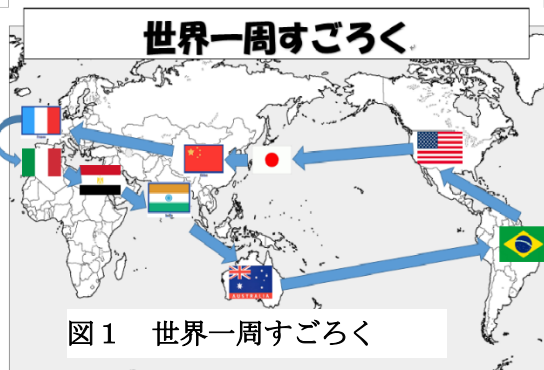


図1 世界一周すごろく

その国の食べ物が好きか聞く。たずねられた人は、はいかいいえで答える。

「Do you like 食べ物?」
『yes,I do/No,I don't』

図2 指示カードの例

英語での会話表現に言い慣れることをねらいとして、世界一周すごろくゲームを取り入れる。

世界一周すごろく(図1)には、国旗の絵が示してある。さいころを振ってコマを進め、止まったら指示カード(図2)を引く。指示

ルール	プレイヤー	世界遺産	食べ物	動物
①さいころをふってコマを進める。				
②カードを引く。				
③カードの指示をみんなの前で大きく読む。みんなはしっかりと聞く。				
④カードの指示にしたがって右となりの人と会話をする。				
⑤右となり以外の人は会話が成立しているがしっかりと聞く。				
⑥もし会話ができない人がいたら、みんなで教え合う。				
⑦所有コマをカードの指示にしたがって格の上に置く。				
⑧次のプレイヤーの番になる。				
勝ち負けにこだわらず、みんなで助け合って学習して、英語の表現に慣れ親しもう！				

図3 プレイヤーズシート

カードには「その国の食べ物が好きか聞く」「その国の世界遺産を知っているか聞く」などの指示が書いてある。例えば、インドで止まったとして、「その国の食べ物が好きかどうか聞く」という指令があったとき、みんなで指示を声を出して読み、プレイヤーはプレイヤーズシート(図3)を参照して「do you like curry?」と右隣の子供に聞く。その質問を受けた右隣の子供は、「yes」「no」で答える。会話ができれば、プレイヤーズシートのカレーのところにあるマスに置くことができる。所有マスを置くたびに達成感が得られると考えられる。また、もし分からない表現があれば、気軽に友達に聞いたりしてよいと伝えたり、安心してゲームに取り組むようにさせる。このゲームを何回か行うことで、友達同士で互いに助け合いながら学び合う楽しさを感じることができるだろう。また、ゲームの楽しさを味わうとともに、英語表現に無理なく慣れ親しみ、英語を積極的に使うことができると考える。

(3) コミュニケーションの良さを振り返ることができる評価カードの活用

授業の導入とまとめに振り返りカードを使用する。導入では、自己評価の項目を参照させ、めあてを決めさせることで、児童が活動の見通しをもって意欲的に活動できるようにする。

- ① ツアーコンダクターとして、お客さんに分かりやすく説明しましたか。
- ② お客さんとして、ツアーコンダクターの話に反応しましたか。
- ③ ツアーコンダクター、お客さんの両方の立場で、会話のやりとりができましたか。

【自由感想欄】

④ ツアーコンダクターとして、お客さんが行きたくなるように伝えるために頑張っていた友達の姿を振り返ろう。

⑤ お客さんとして、ツアーコンダクターの説明を聞いてどんなことを感じましたか。また、紹介してくれた国についてどんなことを感じましたか。

この項目を設定することで、初めて知ったことや驚いたことや、友達のコミュニケーションの良さについて発表することができる。

振り返りカードを元にして、感想を伝えあう場を設定し、一人一人が活動における互いの頑張りについて振り返っていく中で、コミュニケーションの仕方や内容、相手のよさへの気付きを全体に広めていき、「もっと自分が調べた国についてわかりやすく伝えたいな」「英語を使ってやりとりするのは楽しいな」という意欲化を図りたい。

5 単元指導計画・評価

時	目標	主な活動内容	コ	慣	気	評価
1	国名の言い方を知り、世界には様々な国旗や世界遺産があることに気付く。	社会科との関連を図り、国旗や世界遺産などについてのクイズを行う。 ・国旗3ヒントクイズ ・チャンツ ・Let's listen ・メモリーゲーム			○	・世界遺産や国旗の写真などから、外国について関心を高めている。
2	行きたい国やその理由について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。	英語表現に慣れ親しむために世界一周すごろくをする。 ・チャンツ ・Let's listen ・メモリーゲーム ・世界一周すごろく		○		・英語表現に十分慣れ親しんでいる。
3	旅行会社を設立し、自分たちのお勧めの国の魅力を伝えるための工夫を話し合う。	旅行会社設立のための準備をする。 ・チャンツ ・世界一周すごろく	◎	○		・写真、実物、絵、ジェスチャーなどを使い、お勧めの国の魅力を伝えようと話している。
課外	担当国の紹介内容をまとめる。 英語表現に慣れ親しむ。	社会科の時間や朝の学級活動の時間を使いながら、担当国の紹介内容をまとめたり、世界一周すごろくをしたりする。				
4	話し手が聞き手の反応を引き出したり、聞き手側からも知りたい情報について質問したり、自分の考えを述べたりして、互いの理解を確かめ合いながら進んでコミュニケーションを図ろうとする。	担任と中学生のモデル対話を見る。 中学生のアドバイスを受けながら、もう一度表現の工夫について話し合ったり、左右のペアで紹介し合ったりする。	◎	○		・相手の理解を確かめたり、反応を引き出しながら話したり、相手に反応を示しながら聞いたりしている。
5 ・ 6	お勧めの国を紹介する活動を通して、日本と異なる外国の文化に気づくとともに、互いの理解を確かめながら進んでコミュニケーションをとっている。	5時間目は、1つのグループで前半・後半に分け、前半がツアーコンダクター役、後半が客役になって活動する。 6時間目は、5時間目の続きで、前半が客役、後半がツアーコンダクター役になって活動する。	◎	○	○	・相手の理解を確かめたり、反応を引き出しながら話したり、相手に反応を示しながら聞いたりしている。 ・日本と異なる外国の文化について気付いている。

6 本時の指導（5／6）

○自分の思いがはっきり伝わるように言葉やジェスチャーを使い、相手の理解を確かめるとともに反応を示しながら話したり聞いたりしている。

（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

○世界には様々な食、観光場所、生活の文化などがあることに気付く。【国際理解・異文化理解の視点】
（言語や文化に関する気付き）

時配	児童の活動	○教師の活動・指導・支援 ●評価	準備物
1	1 挨拶をする。 「I am good/fine/happy..」	○元気よく挨拶をし、積極的に学習をしようとする雰囲気 を高める。 「How are you?」	
2	2 めあてを確認する。	○児童に今日の活動の内容を知らせて、見通しをもたせて 活動できるようにする。 「今日と次の時間はツアーコンダクターとして、お客さん に自分のお勧めツアーを選んでくれるように紹介をしま す。」	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> お客さんに、自分のお勧めツアーを選んでもらえるように紹介しよう。 </div>		○振り返りカードの評価の欄を参照させて、自分のめあて を決めて活動できるように伝え、授業の終わりに自己評 価できるようにする。 ○どんなことを頑張りたいか発表させることで、児童の意 欲化を図る。	振り返り カード
3	3 前時での学習を振り 返って、ツアーコンダ クターと客の話し方 や聞き方のポイント を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> ～掲示物の例～ <話し方のよい例> ・相手が理解しているか確認しよう。(OK?) ・お客さんにも話してもらるように質問をしよう。 (Do you like~/know~/want to~) (Why~? What~?) ・積極的にジェスチャーを使おう。 <聞き方の良い例> ・ツアーコンダクターの話を繰り返して理解したことを表現しよう。 ・知りたいことを質問しよう。(What is this?) ・もう一度言ってもらおう。(pardon?) ・感想を言う (nice/beautiful/delicious...I want to eat/see/try it) </div>	掲示物

5	<p>4 活動のデモンストレーションを見る。</p>	<p>○教師と代表児童が話し方、聞き方のポイントをおさえたデモンストレーションを行い、児童に、本時の目指すコミュニケーションの姿をイメージできるようにする。</p> <div data-bbox="248 344 1318 1406" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>対話例<T:ツアーコンダクター、C:客></p> <p>T:ナマステ. Welcome to the India corner. (その国の挨拶をする)</p> <p>C:ナマステ.</p> <p>T:In India, you can eat curry.Do you like curry?</p> <p>C:yes I like curry.</p> <p>T:Do you know this? (資料を指さしながら)</p> <p>C:I don't know. What is this?</p> <p>T:It is chicken tikka.</p> <p>C:pardon?</p> <p>T:It is chicken tikka. Ok? (資料を指さしながら)</p> <p>C:It is chicken tikka. Ok. (うなずく)</p> <p>T:It is spicy! Delicious! Do you like this?</p> <p>C:Yes! I want to eat.</p> <p>T:ok.In India, you can wear Sally. (資料を指さしながら)</p> <p>C:oh wonderful!</p> <p>T:which color do you like?</p> <p>C:I like pink</p> <p>T:Let's go to india with me.you can wear Sally. (資料を指さしながら)</p> <p>C:Really? Wow.nice!</p> <p>T:What do you think about India?</p> <p>C:Sally! Nice!</p> <p>T:Thank you! Bye.</p> </div>
27	<p>5 活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ国を担当するペアうち、一方がツアーコンダクター役、もう一方が客として他のコーナーを回る。 ・ツアーコンダクターは、自分の店に客を呼び込 	<ul style="list-style-type: none"> ○やりとりで、良かった点や気付いた点について話し合せて、「わからなかったら聞き返す」「必要に応じてジェスチャーを使う」ことなどを確認する。 ○活動がスムーズに進むよう、全体の様子を把握しながら、心配な児童に寄り添う。 ○それぞれのコーナーを回って、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている児童を賞賛する。 ・ツアーコンダクターが客の理解を確認しながら、ジェスチャーなどを使って、分かりやすくつたえようとしている姿 ・客があいづちをうちながら反応している姿 (うなずいたり、驚いたり、喜んだりなど、気持ちを素直

7	<p>んで自分のツアーを紹介する。客は自由に開いている店を回っていく。</p> <p>6 活動を振り返り、感想を交流する。</p> <p>「〇〇さんがジェスチャーをつけて話していたので英語の意味が分かった。」</p> <p>「理解してもらえなかったから、もう一度絵を使ってゆっくり説明したら分かってくれたからうれしかった。」</p> <p>「日本とずいぶん違う料理がたくさんあって、食べたくなった。」</p>	<p>に表現している様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・客が自分から質問したり、よく分からないときに言い直しを求めたりする姿。 ●自分の思いがはっきり伝わるように言葉やジェスチャーを使い、相手の理解を確かめながら反応を引き出しながら話そうとしたり、相手に反応を示しながら聞こうとしたりしている。 <p>○児童が本時の目標に対する自分や友達の活動の良さを振り返ることができるように以下のように問いかける。</p> <p>「その国へ行きたくなるように伝えるために頑張った自分や友達の姿を振り返ってみよう。」</p> <p>「お客さんとして、コミュニケーションを頑張った自分や友達の姿を振り返ってみよう。」</p> <p>「友達の紹介を聞いて、その国についてどんなことを感じたのかを振り返ってみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●世界には様々な食、観光場所、生活の文化などがあることに気付く。 <p>○本時の活動で頑張った児童を認め、励ますコメントをして学級に広めていき、次回の学習への意欲化を図る。</p>	振り返りカード
---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------

<場の設定(予定)>

